

登山・登攀の記録

台高 東ノ川遡行から中の滝側壁登攀

日時:2000年8月14日~8月16日

メンバ:中西博己、OB高岸且、

概要:大台ヶ原南西面を源とする東ノ川はその上流域において兩岸高度差300m前後の断崖を連れ、谷底にはビルほどの大きさの巨岩が埋め尽くす日本有数の大渓谷である。特に上流域右岸には千石岨の岩壁や大瀑布、中の滝、西の滝など中部山岳に引けを取らない大スケールの登攀対象を擁する。今山行は台高主脈よりいったん支谷白崩谷を下降の後、東ノ川本流に降り立ち関西離れた奇観の中を遡上、仕上げは中の滝250mの側壁の登攀とした計画。

記録

8月14日 晴れ

大台ヶ原駐車場(12:00)ー白崩谷下降点(14:15)ー標高740mビバークサイト(17:30)

大台ヶ原はお盆ということもあって、人でいっぱい、駐車場も溢れていた。百名山の運命とはこんなものである。わらじの僕や溪流靴の高岸さんはきっと尋常ではない人に見えたことだろう。

子供が指を差す。「ママー、あの人、ヘルメット持ってるよー」

その母親「たかしちゃん、見ちゃいけません！」

と、無理やりに親は現場から子供を引張って行くのである。

そんなコントみたいなことはないが、心の中ではきっと思っているのである。だらだらと歩いて白崩谷下降点に。適当に降りて行けばいいので、気は楽だ。途中でわらじを履く。沢を下降していると、途中で3人パーティに追いつき、彼らが懸垂で手間取っている間に、違うところをクライムダウンする。滝が出てくると、大概是、高巻きで降りなければならぬので、面倒だ。降りれば降りるほど巨岩が出てきて、よけるのも大変だ。

どんどん降りて、740m付近にビバーク地を求めた。さっそく焚火を始め、それと共に、ウイスキーが注がれた。酒を飲み、二酸化炭素を大量に発する物体に、蚊や蚋は容赦なくそいつの栄養を摂りに来るのであった。

その物体は、呻き声を上げつつもなすが儘になっていた。あわれ。



8月15日 晴れ

出発(7:00)ー白崩出合(8:00)ー東ノ川遡行ービバークサイト(17:00)

蚊や蚋に刺された、厚ぼったい体を引きずりながら、沢を下降すること一時間、やっと、出合に着いた。

そこで我々を待っていたのは、マムシであった。忌わしい。創世記で、最も忌わしい生き物になったというも、うなずける。ちろちろと二又に別れた舌を出す、やつの忌わしいことと云ったら。まあ、マムシは、鈍いし、人に対して攻撃的ではないので、あまり恐れることはない。

東ノ川は、明るい沢だ。ただ、ゴーロが多くて、乗越したり巻いたりするのが骨折りである。

途中で大きな滝が2回ほどありその高巻きで、高い処まで押し上げられ、苦勞した。楽しくないぞ、高巻き。沢に戻るのに一苦勞。土まみれの地下足袋を水に浸す。うう、ちべたい。ひいこら言いながら、ビバーク地に。

登山・登攀の記録

ややもすると、雨が。一応、ツエルトを張る。
待て待て一、明日の登攀はどうなるんだー？
逃げ道を議論するが、途中で雨は止んだ。
あした天気になーれ！
焚き火を囲み、酒を飲みつつ願った。

1月5日 晴

出発(7:00)－中の滝取付き(8:00)－中の滝7ピッチ目終了点(12:30)－稜線(13:00)－東の谷木橋(14:15)－大台ヶ原駐車場(15:25)

西の滝が飛沫を上げている。空が開けているので、非常に明るい印象を受ける。

中の滝の登攀は、中の滝のルンゼの右端から始まる。登攀開始、8:00。

1ピッチ目、緩いスラブを直上し、ブッシュ伝いに左へ回り込み、スラブに出る。30m。ボルト3本のビレイポイント。しかし、一本しか効いていないので怖い。Ⅱ級。

2ピッチ目、緩い階段状スラブ。凹角をねらって上がる。大岩でビレイ。45m、Ⅱ級

3ピッチ目、再び、凹角を狙って上がる。残置ハーケンが途中4箇所ほどあった。ピトンを2本効かせてビレイ。一本は効き過ぎて、回収できなかった。50M。Ⅲ級上

4ピッチ目、緩傾斜帯。40m、Ⅰ級

5ピッチ目、ブッシュから左へ回り込み、凹角を狙って登り、ハーケン3本のテラスまで。40m、Ⅳ級上。

6ピッチ目、再び凹角を右上気味に上がる。滝のテラスまで。35m、Ⅳ級上。

7ピッチ目、滝のテラスを左端まで行き、右上し凹角を登る。滝から離れ、ブッシュ帯の大木でビレイ。40M、Ⅳ級上。12:30。

ここからは、易しいのでコンテで登る。

右上する脆いルンゼに入りそれを詰めること約200m、小さい尾根に出て、ザイルをしまった。

そこから稜線へ、200mほど登る。稜線に出て、ギアをしまった。13:30。実質5時間半の登攀だった。かなり満足感も大きく、楽しかった。そこから少し下って、沢を詰め、登山道に出た。登山道を踏みしめ、うるせえ大台ヶ原に向かった。

全体的に展望も良く、豪快な岩登りができた。

(記／中西)

